



和字正濫鈔卷五

門利  
號 103  
卷 5

申下のふ

うまのふを申すはひふへ  
はとあくをハおほく  
糸のてをうら本綿よ似これハカ

遊線 いとゆふ

くらの丸新撰糸葉集よハ遊線を

かろろふにかく  
せしこまうり

言社 いよのやう

日本紀

殖生 はよふ  
何せといふ  
皆准此

出や

匝 はよふ

和名常よりんざあといふ又和名  
よ倍線の字を用出る所未詳但和



この溢の字より  
崇神紀よりあり

法美 けいめい

和名因幡  
國郡名

新川 よしな

和名越中國郡名。万葉よ  
ハノハカケトシヨメアリ

新田 よしだ

和名と郡國郡名。世よにつていといふ  
けり使なり。万葉よハノハカケトシヨ

め

屠 ほろ

和名け申  
のふ

字の〜〜〜〜〜と〜〜〜〜〜は〜〜〜〜〜  
和訓の〜〜〜〜〜と〜〜〜〜〜は〜〜〜〜〜  
よむ  
遠江 とほいあ

和名い〜〜〜〜〜と〜〜〜〜〜は〜〜〜〜〜  
く〜〜〜〜〜。又都阿切の〜〜〜〜〜  
ハ阿ハ折文也。万葉亦二十をハ國の防人  
保美とよめる。倍ハ保よか。保ハ不よか。ハ  
〜〜〜〜〜河の字なり。〜〜〜〜〜ハ  
國ハ猪鼻湖井ノハナミツウミといふ水海の  
へてをい〜〜〜〜〜。後名猪ハ湖と  
〜〜〜〜〜師孫孫師した。ハ  
〜〜〜〜〜世山〜〜〜〜〜の貝乃  
こ〜〜〜〜〜湖とさる〜〜〜〜〜入  
〜〜〜〜〜ハ  
訪 とも



別よ心  
みこえ

遊絲 かろろよ

新撰

糸糸よかくあり。万葉よハ炎とて精火としかくあり。け  
ろのゆりよまは糖蜂のほのめくよ似れハ糖火とか  
まて甲一みよいゆれ。古事記よ履中天皇の御製よ  
ハ火をかくろいよのせたまつり。野馬ををりゆる  
とよゆれハ皆かろろよん

河内

かろろ

和名かはろろを皮字切  
布るれハかくつあり

櫛 かろろ

和名けろり一信局知。これハ俱  
縁よて佛手相といふ菓のなれ。

甲賀 かろり

和名近江國郡名目が  
紀よ鹿深とかろり

甲香 かぶろ

和名

甲奴 かぶの

和名備は  
國郡名

竹淵 たろろ

和名河内國澀河郡名あり。乃  
字今ろのろろろろ。山城久世

和名同名あり。

塔

他蓋切

たろ

塔婆の略  
和名塔婆ハ

又宰観波の訛略の梵語あり。和名よ佐よ塔とハ之興寺

天王寺るしよあるやろるをいハ塔婆と宰観波

とハ本よて五痛よ刻したるをいハと甲ろろハ倍るろ

昔よ塔とて宰観波としりろろろ。凡石よてよ本よて

七五輪は刻てくねを塔といふるハ密教は限りて顯  
 教の大小乘はすしてゐるなり。顯教は塔といふ  
 と二重三重は角八角等凡聖の階位よりありてそを制れ  
 ばて受なり。大小受るれしそを飛帯のくし。密教は  
 一の密の塔はありうしよは又智障の不芸の塔婆あり。  
 これすまひち大日如来乃三摩耶形なり。一家の秘の  
 肝心これあり。げんは又肺を刻て信巻して遊  
 福るしよはあてくねを祇宗し何しちくく又あはしく  
 せきさす  
 ろるなり  
 貴なるなり  
 万葉  
 字合 殺 甲 曹 の 時 っ し り ね は 流 す 一

倒たる

斃たる

和名 斃死也  
上の倒のさ

へー

狂心たる

日本紀  
和名

層たる

塔腰  
るなり

犢鼻褌たる

日本紀万葉和名一名ちひささきりのかうしんはよむせり  
 神中抄よしをりの日波抄よりあはかちのーアを  
 うーるなりふへりたあささきりとかれくを思ふ  
 たあさきりといふ所のを神よしひふせりなり。今も

あつまの人ハたゞさきとPより 或人流りPさげたあさ  
たを世よふんとしつるハ後者の後流をワの方采才十  
ちよも食者のよめるもあよ馬よこそあかりしーかく  
し半よこそ。づまうそはぐれとよめり。げありしーの  
羽とろお。そまハありしーハこれ踏黙<sup>モタニ</sup>する。布毛切係あ  
るまよつめてはほしーしよ。あしき馬の人を踏  
るしすりし。ほしーをかけつれハちむをよりしす  
しつり。禪<sup>禅</sup>をかけしーさまの似しれハかろ名  
付しり  
アヤ

答志 なる  
和名志摩 國郡名

田結 たゆふ  
和名但馬國 城崎郡名

獵師 まし  
獵力涉切和名かりのし。これハ山  
まて獸をかりのしをこししよ

を音よいつれハ世よハすふとありしを老をわらり  
西行と人のまよふ舟とよまねしれハむしり  
のころよ  
添上 そまのかし  
和

圓郡名添  
下准此  
爪甲 つめのこよ  
和名 子信

よしつらん公甲ハかよるし  
をこしとまらしつるあまら  
睡 ねる  
和名

楯 ねるりの本  
和名  
長能 人あがたよ  
和名 八塔

の訓  
二月

閏月 うらまふつき

牛蒡 うらまふつき

和名よ一名きたきす世らよハ音よいハ蒞ハ博郎切ごえう

とまへー。字よまの。房よ作らハ保るり。蒞をまきと和名よかかれこれハうまふつきハ下のハうのこくいのてさハ美落<sup>ウキ</sup>なり。そそ蒞よ何てたぬさき蒞ハくつねよそそあれきそそかくハ名付しり

衾 のよ

又たハ和名

蛤 ねよ

和名けふりすしほり

いまのこ

大肉 おふち

和名俊は國郡

名。おちうちを保年切布るれしかくしり

大市 おふち

和名播磨國郡

保那箇申國穴窪郡ハ名おほしりをいを略してとおほしりるりへきを彼國のそよまきしり

邑美 ねよ

和名因幡國郡名

蛸 ねよ

和名けふり信濃未考

欵冬 やまふつき

和名此和訓のそよんハ蒞をり下のふうのしりけねよつき

て実後あり。醫家よ蒞の塔といハねを刊。本草の圖をしハ似るしりまのしりれし定かし。和名よ園菜部よ蒞を物して崔禹錫り合經を引れしゆし欵冬といし寸。欵冬ハ音部よまのハ牡丹蒞





五葉松 ござふのまじり 国府 ござふ

うのこしと  
くいつらり  
驚<sup>トク</sup>及<sup>トク</sup>よて音こくなれらくとふと同約よて通<sup>トク</sup>らる  
よ音を刑とせらるればの國はさき郡よ流<sup>トク</sup>比といふ村あ  
る<sup>トク</sup>ハ音倍<sup>トク</sup>倍<sup>トク</sup>名<sup>トク</sup>六<sup>トク</sup>こ<sup>トク</sup>う<sup>トク</sup>よて<sup>トク</sup>乃<sup>トク</sup>大<sup>トク</sup>き<sup>トク</sup>さ<sup>トク</sup>る<sup>トク</sup>を<sup>トク</sup>い<sup>トク</sup>お<sup>トク</sup>推  
多<sup>トク</sup>す<sup>トク</sup>り<sup>トク</sup>よ<sup>トク</sup>鶴<sup>トク</sup>比<sup>トク</sup>と<sup>トク</sup>ち<sup>トク</sup>へ<sup>トク</sup>こ<sup>トク</sup>を<sup>トク</sup>流<sup>トク</sup>の<sup>トク</sup>字<sup>トク</sup>を<sup>トク</sup>え<sup>トク</sup>る<sup>トク</sup>れ<sup>トク</sup>て<sup>トク</sup>是<sup>トク</sup>を<sup>トク</sup>  
こ<sup>トク</sup>う<sup>トク</sup>と<sup>トク</sup>思<sup>トク</sup>ひ<sup>トク</sup>て<sup>トク</sup>音<sup>トク</sup>の<sup>トク</sup>似<sup>トク</sup>し  
る<sup>トク</sup>よ<sup>トク</sup>ま<sup>トク</sup>す<sup>トク</sup>く<sup>トク</sup>へ<sup>トク</sup>る<sup>トク</sup>な<sup>トク</sup>ら<sup>トク</sup>る<sup>トク</sup>こ<sup>トク</sup>う<sup>トク</sup>一<sup>トク</sup>

鵲 ござふ  
和名又<sup>トク</sup>は<sup>トク</sup>く<sup>トク</sup>ひ  
と<sup>トク</sup>し<sup>トク</sup>。鵲<sup>トク</sup>を<sup>トク</sup>胡<sup>トク</sup>

蝶 了<sup>トク</sup>よ  
徒<sup>トク</sup>類<sup>トク</sup>  
甲倉 ござふ  
栗田 あい<sup>トク</sup>よ  
日本<sup>トク</sup>記<sup>トク</sup>  
和名<sup>トク</sup>よ

ハヤ  
る<sup>トク</sup>り  
標 あふち  
和名<sup>トク</sup>  
一万<sup>トク</sup>葉<sup>トク</sup>ふ

障泥 あふり  
和名あふりといふを律よる  
ていあふり。あふくしなはら  
とる<sup>トク</sup>ら<sup>トク</sup>へ<sup>トク</sup>。又<sup>トク</sup>倍<sup>トク</sup>よ<sup>トク</sup>あ<sup>トク</sup>ら<sup>トク</sup>丸<sup>トク</sup>と<sup>トク</sup>い<sup>トク</sup>ひ<sup>トク</sup>あ<sup>トク</sup>ら<sup>トク</sup>り<sup>トク</sup>し<sup>トク</sup>ら<sup>トク</sup>も  
あ<sup>トク</sup>ら<sup>トク</sup>ら<sup>トク</sup>あ<sup>トク</sup>ら<sup>トク</sup>を<sup>トク</sup>り<sup>トク</sup>し<sup>トク</sup>字<sup>トク</sup>ゆ<sup>トク</sup>も<sup>トク</sup>い<sup>トク</sup>け<sup>トク</sup>る<sup>トク</sup>る<sup>トク</sup>こ<sup>トク</sup>う<sup>トク</sup>一<sup>トク</sup>

相可 あふり  
和名伴<sup>トク</sup>時<sup>トク</sup>回<sup>トク</sup>  
多<sup>トク</sup>字<sup>トク</sup>類<sup>トク</sup>以<sup>トク</sup>名<sup>トク</sup>

糞堆 あく<sup>トク</sup>よ  
和名<sup>トク</sup>あ<sup>トク</sup>六<sup>トク</sup>  
せ<sup>トク</sup>ら<sup>トク</sup>り

楞 あふこ  
和名<sup>トク</sup>  
扇 あふき  
を<sup>トク</sup>律<sup>トク</sup>よ

いひあ  
するや

會見 あま

初名伯耆  
國郡名

葵 あふひ

朝津 あま

初名  
越前

國丹生郡以名。僞るるあまさんびのりとうとて  
ハげあるや朝津とハカキとれと僞名よれハ麻  
ハ津るるを朝の僞字  
よせをよれ付るる

鈔鑼 さあ

初名云  
唐韻云

鈔鑼二音。與沙羅同。俗云沙布羅。今按或説云新羅金梳。  
出新羅國後人謂之雜羅新羅之訛也。正説未詳。比ハせんハ  
さしといふへきをを化てさしといふるや。又一説ハ  
新羅金梳といふ器ハ新羅より出るるハ國のくまを

わて新羅といふべきを後人新の字を報よまらへて  
報の假名ハさるれいさしといふとるなり。新羅ハ金お  
ほきハ國元。祚代紀よハ金梳ハ國といひ又新羅より使  
を奉るるハ金氏の人おほくんさるるもこれよめら  
や。但新羅を報新といまらへてハ。沙羅の流音なる  
へ。今世よさるりといふ器ハさあの音の又精  
たら  
よめ  
さわりらとよめら。守の字を加へてかきり。日本紀  
よ佐風をかせさかりとよめらハ方系よ風さりと  
よめらよおる。新羅ハ  
ううとよめら

伺候 さあ

初名  
一万余

侍 さあ

初名  
侍



あまのりよとよめ  
り日平紀よしあり

以上依舊假名遣歌酌以下今加々々

むとらうとよまきつるゝ詞

凡うわがむとらうとよまきつるゝはとよま  
字次でうけまめしとの字次でうられどとのむとら  
わよまをあまきつるゝむとらうの  
やうよまをうられどとのむとらうは

郁子 むとら

和名

諾 むとら

菱家よあまよ  
この郁子を

借てうせむつりあよむとらとわかれり  
日平紀よらうめをわらうとらとあり

圍人 しまうい

和名

厩 むまや

和名馬  
屋あり

孫 しまご

和名

離孫 しまごをい

和名甥の子をいふ但女を  
ハシのこめらいつり

牧 むまき

和名馬  
のこを

和名は城詞あり牧をいふよりりて名付  
しつるを略してまきといつり

祖母 うい

優婆利 うい

優婆塞 ろはろく

附優婆夷  
ろはい

荊 ろりく

和名又む  
はくごし

奪 ろもふ

馬 ろま

日本紀万葉ハ各ろまなるなり。ガ葉オ二十  
よむまといとせこれとそれハ赤紋ナれハ

そのろりるへーみーろまをよみよハみらろま  
とかろりろりて清くへて知るー。和名ろまおほくむ  
まといかき又ろまといかろり。  
馬何く馬これよ清くへー

馬 蠟 ろまのせ

和名

蕃息 ろまのり

日本紀

生 ろまのり

むまのりといゆゆれとろまのりとかく  
ーろりろりむといふ時むといふと

鱧腸草 ろまのり

ろす。ろす。ろす  
えれろろ

和名今馬來のろまは名付しり。狼牙をろまよつろま  
いよし和州のろま同。菓よ來禽あり和漢相似しり

美 ろま

日本紀味よろり  
すよまをいり

君子 ろまのり

日本紀。ろまよまき人あり。搢紳  
をよ良家をいりく遊をり

梅 ろめ

よあよ和名各おる。古今集物名よう  
めを記してあろろめよつひるりて

ふくれうましとあり。此の處をまよしうり。をなま  
りりてとらうめりか。ししとせられし。ませせら  
うめとの。かろをまよハむめとの。せるし。  
てうめとかく人。愛月アヅキのまよはせし。くろを  
埋本 うまれま  
りふ時。まよむむむ  
とかねうをあり

うとむとがのみれ

まよせし。ハ略々女  
をまんかまうなと

いふたういのまよ  
るりやしとせ

抱 うう

日本紀よ又む  
く。まよハい

鱧魚 じふま

頸下者也とあれハ胸鰓チウアキといふ。まよハ文字集略をひく。まよハ在  
大用者也とあれハ鈴鰓スズキをいひて思ふ。

五茹 じふま

今しさりふあり。これを姓氏録ハコト聲本キとかれ  
し。五茹よ付く。まよハやみ。くん

虫 じ

律代紀ハ虫流とて。うと。な。く。と  
まよあり。但し。ハ。まよ。し。り。ふ。と。れ

ハ大いこの中を  
はりあまうきさ  
ししよ

庭  
ひーろ  
うーろ

めり

うとぬとかよふね

黒玉

万葉

ぬいたま

日本紀古事記万葉集わ  
たまるなり。君らあままよし

二首ぬいたまよしかかり。後よひうんたまよしかかり  
天徳の合の判何よまゝ我んこり。今ハしんま  
ししかかり。梵字よは付てしんま  
ぬむ乃こ字通しんれぬをあり

漆

らる

氏は漆部をぬりてしんありこれよ  
ありて用いしを塗汁といふ略よてぬ

るーといふまを同韻よて通  
てうるーといふありし

大人

うー

日本紀よ於郷をぬをしうーと  
ああらん今のぬーといふは甲く

えぬあま  
こよあま

むとぬとかよふね

珠海

ちぬのう

万葉

讃岐

さぬま

いん

さんのちをかく用いけ類考久んハわや  
りりへー。後日本紀は後波を紗抜しとかり

三瀦 みじま

和名よハ筑後國郡名なり日本紀の  
水沼ミヅなるしけ地の人なりわな

よ安房回朝夷アキ大瀦オホ保ホ  
奴萬ヌマン  
これ瀦をぬきしとあり

むとりしとかり類

鯉

とむ

和名倍よと  
しとかり

懇 ぬとら

一万葉懇  
勤をい

同くふありきりぬんころしとかりぬん  
へておやうよとありむりさ。但祖いとしむ思ん

るしといふとハ除くころぬハ美奈よハ將言將思なりかけ  
りぬハ將來よて末をぬてい河なれハげよしとあり  
むりとのきけつりばねとらよわねのころハ方奈  
よ山麦の根とらよし川柳の根とらよしとけ  
てすふとら根の字をあやこおかくハ如根チモコの義と  
おほしとら如をいころしとらハの古流よて  
日本紀よし万葉よしありころしとのあハ根をとら  
くくさてかててぬれやよおありおあり  
よあをころしと思つてころしとらよすらすその  
しとるれとかくとたていあさし  
奈毛 ちし  
これハ後日本紀等の宣令よおほしと  
とハなすはよこれるんかくあんたし

いふ教のるんちり法花懺法よ至心懺悔の至心をと  
しよむし通してあり南無をなすしといふし  
但一云ハ此るり刑あるのやうよとわしよむるおほ  
つらき行成口の比るての假名の跡もつるをんよま  
たゆゆるおほくつよむを用かむよむを用き  
あつらふあれとん人の假名よとわしつら  
を後ハ假名よまうすらよやわ象式アうまよ人か  
んよしきうせし萩がたさくたうけのむら  
ちよのむんをしせんきうせしとんといふをい  
おらうしとらひてえせしなうよとわしつら  
のこらとあつてんせんきうせしとんを假名を通  
てかへるをいふは字のむらけて通してよめ  
ちり

大已貴令 おほあか

おほのしき  
大汝をかまておほるんちり  
大完持をかまておほあか

鰥夫 やむを  
わ名を  
よやせ

めといふは流しハヤを  
りかへしとらひすむ男なり

寡 やむめ  
わ名やのめなり伊勢の流しハ男  
をいふはめよとわてかへり

三室山 しむらやま  
こ諸をかまて  
こむら



けいりょうあり釜の口をあらひらひりてなまぐ  
てしりあをさあめりしはうしてハ冷な。

諾 しん 日本紀よハ  
うめあろ

訓霸 くわく わを伊勢國  
朝明郡ハ名

訓覓 くわん わを安藝國  
高直郡ハ名

反轉 くわん 万葉わをくわめくをの名を松葉  
みよとくわうくをくらめとわと

いりりどのあしりり乃字の佳唱  
かゝれとこれようりてせり

渥連 わつれん 日本紀よハ端出之繩を  
らりらあろしとわり

天皇 すん すめらみ  
きし

めとやゆのへり

並 あつ 万葉假字ありあの御はたららま  
よるしよの類なり万葉あは苗とい

ふりーをしあてよの字をくすよめりしありぢ  
はるえよしやゆらちよいんくららら

浮 う

しよまのしよぬ

葬 ころころ

訪 ころころ このふかり  
むよほり

帛 ころころ ぬ  
る

冠 ころころ

蒙 ころころ

蝸牛 ころころ

傾 ころころ

昔ハカをとりていひころり  
あまの字をかりり

悲 ころころ

戲 ころころ

樂 ころころ

合歡木 ころころのま

眠 ころころ

紙 ころころ あかり  
まじり

とりの人  
とあり

浮 ころころ

苦 ころころ

煙 ころころ

燭 ころころ

撰 ころころ

伺候 ころころ このふ  
をいふ

侍 ころころ

鎮粉 ころころ のけり

ね  
名

○ 未考 雨風ましの障まふり吹中のみら  
 れ弱しすもめするもつよをむせぬらん  
 つかのハすもむとちりー又くらすもむせぬらん  
 みるくさむらあちこれしみるか  
 らくらくすもむとかくらきを

みよまろふ

辭

いさひ

悲

かき

樂

たの

浮

う

飲遊

うわ

未考 倭名万葉

苦

く

撰

え

○

未考

す

下南野を楢日野としりひ。鷄をとみとしりひ。座ハ  
 和名よにきつしなるらよちりあハのきさびといひ。万葉  
 悲を可奈之備とし絶深としちされえ。わ  
 を院とてたのしをたのしなるし皆通  
 してとてべし。さのしとらむへしす。  
 こハ同韻の隣近しとてしとく通しとらる

なとまゆらふ

仆 たる

斃 たる

障泥 あかり

扇 あかり

まのま  
ゆ

仰 あかり

いし  
し

葵 あかり

なとまゆらふ

擦鬢取 かうふ

神館 かうふ

髮際 かうきん

頭殿 かうのどの

疊紙 たうかみ

手水 たうつ

なとまゆらふ

勝臣 かちねん 古今  
作

神戸 かんへ

上野 かんつげ

上総 かんつげ

仲文 かうまむ

貞文 さういむ

公利 きむじ

公任 きんたむ

假名よたふひていふ類

蝙蝠 かんぼり

俗かうり

麴 かんごら

かき発 をかき発 をかき発

かく名付んぬ俗よまこれをかうぞくしり。猪ハ餅の下よ  
之四聲字花之猪 今業訓賀布  
ておのかうといふハ  
儼の字なるし

食上生百也大かす而後よあひ

申下よ濁るち

恥をこらうしり聞をとら  
とらかやうよ通してあひ

をハかさす。

下宜效此

紫参 ちくのばら

和名千葉参のさくよ名付  
しり下のちは清濁可る

癭胗 ちくちむ

和名又  
ちはらる

齧齧 ちくちく

伯父 をち

菖菝 かうち

撤 かち

梶ハ和俗の他  
る字なるし

○ 未考

ちりり

字作  
於此

よめらりり不効といつるるありあり。後よし  
いふるるなり。すもらるといふよしをくやゆ

穀 かもち

鍛冶 かもち

英泉 よしち

但馬 たちま

丹比 たらひ

○ たのち たらひ 万

倭人 ねちけひと

汝 るんち

ナ 持 の 我 死  
大己貴を大

ナ 持 の 我 死  
はほららるるよし古伝ハおほく名を付ていり。えんを名え

ナ 持 の 我 死  
持といふ。又名貴死日本紀ハ貴人をむちといふめ  
す。昔よし母といふて同輩より下よし向ていふその  
やうなれと後よし母佛汝尊なりとあれハ伝す

蚰蜒 かめらち

ナ 持 の 我 死  
和名滑鯨といふきをなめらち  
るおもと。形らちらちよし似らる

ナ 持 の 我 死  
え。後よしな  
めららち

氏 らち

祖父 おほち

鯨 らち

ナ 持 の 我 死  
日本記  
和名

碓道 やちのかけち

右

弥 らち

○ 古名  
未考

けらめ

藤 ふら

蘭 ふらりうま

蒲公英 ふらふ

和名又  
云々

柱 こしち

第  
柱

淡路 あんち

名付り  
ハハ

恥るり。陰陽二種大回をうまんと思ふ。めくろよ  
小回るり。くれが系恥るりと思ふ。あすのなる。  
舊事本紀  
ふんくち

鯨 あち

和  
名

味 あちばい

菰豆 あらうまめ

和  
名

紫陽花 あらうま

万  
葉

無端 あちきさ

射採 あむつち

和  
名

鰻魚 あさち

和  
名

三十 みそち

茶師寺の佛足石の傍のちよこ  
ちあすりあしりのすうじといふ

よ弥蘊知阿麻利とあり又日本紀の述しおれ。ヨソチイソチ  
ヨ准此。みそちとて去へうす又人の年をいふ射八みそ  
ちよそちといひおのねよ八みそちよそちといひてこち  
ちよそちといひあすちよそちよそちよそちといひてこち  
佛足石の贊のちよこ三十二相をみそちちあすちとあれ  
よらりの物のねよわちちてりあちよそちよそち

百をかりち千をちりとりひ下のち皆とくは甲から  
へ。さてちとけと通すれふとらあつりりりりり  
りまてのつよ  
甲からへ

絞 ちちち

和名は  
濁未考

搦 ちちち

助枝 ちちち

和名

臂 ひち

釧 ひちちのま

和名

柝 ひちちのま

和名

櫓 ひちちち

鋏 わざら

和名わらわらといふ  
よ甲からへ

脚 文選 わちち

又文選顔延年秋胡持昔舜秋未キオチセ  
よへおほく黄葉をかりちちちのま

よへおほく黄葉をかりちちちのま  
のまよへおほく黄葉をかりちちちのま

筋 すちち

○ ちちち  
未考 すちち

申下よ濁る

燈娘 いちちち

蔓椒 いちちち

和名又ほそき。ちち  
よいよい椒なり

蕨 いちち

和名又  
いしち

鹽 ば  
和名よへば  
しゑて居る

土師 ば  
氏るなり。又此の名よおぼし。塩師をり。塩  
はくさまくの物を他もるるあり

薑 ば  
鰻鱺魚

虹 ー  
彈

初 ろめ  
断

燈心 ー  
和名  
俗名  
戸母  
日本  
紀  
老女  
稱

閩 ー  
鑰石

鱸魚 ー  
俗よつをこせといふ山の外  
よをこせんとすといふ流あり

吳茱萸 ば  
和名  
李衡

憔悴 ば  
權

つら。お國よ吾の耐もくおるなり。  
仲正のまよかきさくといふあり

膜 たる  
和名肉内  
薄皮也  
○ 未考  
たる

しひまの考わくねとくろくとりあそしあれハ  
たちろくくあ〜〜と思はて〜は出す

躑躅 つー 旋毛 つむ 馬 和若

飄風 つむ 日本紀。旋毛よりのりて思ふ  
よ吹中ありすをりふらなり

辻 つー 旋毛をい俗よつ〜とくく世つむー  
よめて義も不通すへー。文字ハ十字の

つむ 掘 日本 ね 古 奉  
紀よ天香山く五百津真賢末矣根許士尔許士而とか  
れ。方々よ〜その春い〜て掘〜ふや〜のりすめ

梅はれさ〜き〜く〜けい〜て〜を伊許能而とかくり  
仔ハ發統の相ちあびをを抜き〜入〜れ〜ら〜の  
〜年ね〜てとあり。士し自し多ふハ隔りて羽  
かり字なり。き〜よ〜て〜りあ〜むぢらるるをれ  
とあをちり対のあ〜こ〜へりちりちりあせを  
義通す。又通すのなよな義のかりて情とらるるお  
ほ〜。ねれ〜の〜ハ〜ら〜り古統よてか  
り〜よかりちるよ通すと知〜。ね〜の〜り今  
の世通〜す。より  
てあ〜くは守 詰 あり

木薬子 むくれみのま 和名よ蘇敬本草注を  
引て〜。薬其子堪



とあれと催馬樂  
よろーとつらり

璫 ころー

網代 あーろ

簀 あーろ  
わ 名

雉 きー

短 ころー

緘 ころー

縮 ころー

覘 ころー  
万葉  
わ 名

衛士 ころー

羊 ひつー

白鮮 ひつー

聖 ひー

日知乃我るり日ハ此國よりたれ  
むろよほめてりり河知ハ此知りる

すまわりち万葉  
日知とからり

桃蠹 かりのむ

わ名との蠹のトよりあうこ  
と。桃く虫とさるへうす

中下よ濁らつ

鱗 いろらり

出 ころー

威稜 いろ

何 いろ

泉 いづみ

恥 ちづり

羽束師森 はつりーのり

延喜式神名帳  
よ山楳園乙別

邦よありあり。和名よの羽束とかきさて師をよのり付ての  
名るあり。又和名よ接は園有馬邦よ同名のりあれとも  
アといふなり。乙判邦よあり大社をよむていふなり。さ  
しあるさあをさしむ。はの園といふはあれと山城よ  
定む  
へし

弛 そつす

縻 そつす

○ 和名  
未考 はつれ

酸漿 ほづま

和名が  
し日本紀

百部 ほとつ

燐 ほそくら

和名

達 とつく

日本紀  
くるりき

え集  
よし

千 ち

下のちのち  
つらつら

よか  
てん

近 ちつく

叩頭 ねつく

額衝なり。額を地よ  
つきあつなり

才 じつ

煩 こつらふ

鞅掌 かつゝふ 文選

葛 かつゝ

髻 かつゝ 和名 女具

鬘 うゝ 花 鬘

潜 かりく 上野 かんつけ

萬 よろり 鸚 たび

○ 和名 未考 たび 湯よそて瘡をた

○ 和名 未考 たつゝのき 尋 たつね

女貞 たつゝのき 和名又ハ めつゝき 携 たつゝのき

鶴寸 しろき 万葉たつゝのき 今ハすめと万葉の假字カ

このしゝゝるるうへハ歌の字をか  
くらねしあれハかりとハ隔るゝなり

○ 和名 未考 そしなげ そしなげの民のこめよ田をさり  
こまのいくらぬそのは鹿るとおと

ろく寸物を信取といふといふとらぬと信取ハ信取と  
うつゝとそそとていふれまのこ回史を考つるよ信友を  
らま寸草ハ今のやうよ職をよ信友とて  
は月の信友ハたまらゝ寸又うらるるなり

褐

つゝ

つゝろふ  
よ名つく

綴

つゝる

黒葛

つゝら

續

つゝく

約

つゝまやう

薺

なつゝか

泥

かりむ

隨分

あつゝさく

白氏  
文集

○ ま名  
未考

なつゝさふ

腦

あつゝき

鯁

なままり

和名

歷易

あまづりづ

和名

鶉

うつゝ

埋

うつゝむ

蹲

うつゝまる

俗よつくまふと  
いふとけはむるん

大秦

うつゝまふ

雄略天皇の沛時秦酒ノキミ公ノキミまぬ  
しを禁る處は後て奉らうらる

なよ氏をうつまふとと賜ひくらの埋いまふとくらのささる  
くらの膚をあらしたむるささるあり。文字ハ日本をや  
ますくらのめくらは清くあら。どの義  
日本紀并古流拓きささるよらんくらのあり

牛膝

かのくつち

屑

くつち





の阿八ま  
うりす

氷頭 ひとつ

○ 志名  
未考

ひらむ

つまなくまよひちりめとらふま  
よかよはけ假名かくるるへー

蹄 ひらめ

水雲 ちらむ

ちらむ  
よかよ

ハムツクカトシマ  
を下のものを略する

物集 ちらめ

ちらめ  
深田乙

訓郡  
以名

鏝 せまう

せまう  
和名

るる  
なり

中下よ濁る寸

唐棣花 くらぬ寸

唐棣。朱華を日本紀よくらぬ寸  
とらぬなり。郁子ハス文の名。和名む

ハ郁子の核なり

必 かなう寸

かなう寸  
カリナラ  
の略を

數 かな寸

腴 つらすり

つらすり  
野王按

腴魚腹下肥也  
土摩の義ある

鼠 ねとらむ

搜 ねすむらひのま

ねすむらひのま  
ねすむらひの本とらむ

○ 名考

むす

むすむすむすむすむすむす。無手  
とむすむすむすむすむすむす

渦 うす

雲聚 うす

お名  
馬具

髻華 うす

日本紀  
又細

野薦 のす

伊代紀  
すハ

篠の類  
うす

強女 おすき

古流  
おき

葛 うす

箬 やんす

假殿 うす

日本紀。是今の世に後敷とか  
きんてさんーきんてりめある

俗字、傍  
如此

瑕 きす

玉

疵 きす

疵 きす

河内  
四置

河郡村名なり。崇峻天皇紀に物部大連昇<sup>テ</sup>衣<sup>キ</sup>摺<sup>キ</sup>朴<sup>キ</sup>枝<sup>キ</sup>間<sup>キ</sup>  
臨射<sup>キ</sup>如雨<sup>キ</sup>これハきすりのえのきすのまゝのほりてさ  
るを今の平氏の子傳は  
守屋の石をてて天皇もへき附一たまの申は河  
内<sup>キ</sup>よ衣<sup>キ</sup>摺<sup>キ</sup>地<sup>キ</sup>を  
るありこれる

彌 ゆみす

蚯蚓 みす

附白頭蚯蚓  
かみみす

槐

あしよす

和名俗よ  
ハるんす

鹿尾菜

ひすきさし

和名。又古味菜としかくり。伊勢物仇  
よらり。きさし。若くよりよ七甲

鷓

りす

鈴す

殊洲

す

能く回  
郡名

漫すろ

遊仙窟  
ろよ甲

弄丸

すすり

和名又た  
ましり

硯

すす

墨を磨るなり。すすり。和名よらす。す  
り。あり。げ。時ハまら。あ。ろ。ろ。

鱸

すき

雀すめ

涼

すー

髻すーろ

和名  
よ文

字集略を引いてい  
く小兒前髪所餘也

右ちりりこる。い乃にり。流方の人乃ち  
よいあ。ちの。あ。と。な。ら。つ。ハ。ず。と  
る。田。今。の。人。の。い。ハ。ハ。ち。と。る。ち。ず。ハ  
づ。と。あ。ら。ち。り。あ。ら。あ。ら。鼻。よ。入。ら

やうよしむせわれかかひせむ。於方の人を。くを  
とられどもしつれとつけて。もくしむる。田令  
乃人ハ。おてしおほく。改しむ。かひあり。あしむ。  
但ち。つし。の。漏れ。かき。しむ。も。れ。ハ  
る。じ。し。ら。な。も。ぐ。て。ころ。く。ま。ゆ。る。ま。う。ら。の  
へ。此。次。より。も。王<sup>ヲ</sup>往<sup>ヲ</sup>等<sup>ノ</sup>の。字。層。よ。あ。し  
ら。ざ。れ。し。わ。う。の。假。名。よ。け。し。む。も。う。つ。よ  
し。を。う。の。こ。し。あ。う。し。を。う。む。う。ハ

おる。ま。い。な。う。り。

何ろよといふえの類

突<sup>カ</sup>系<sup>カ</sup>かろよ 蜻蛉<sup>カ</sup>かけろよ

鳥<sup>カ</sup>あくろよ お

右<sup>カ</sup>衰<sup>カ</sup>おろよ 拾<sup>カ</sup>ひろよ ち<sup>カ</sup>といあよ 拂<sup>カ</sup>ろよ

捕<sup>カ</sup>とらよ ち<sup>カ</sup>といあよ ち<sup>カ</sup>といあよ ち<sup>カ</sup>といあよ  
め<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>う。た<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>ろ<sup>カ</sup>へ<sup>カ</sup>む<sup>カ</sup>ろ<sup>カ</sup>ひ<sup>カ</sup>は<sup>カ</sup>し<sup>カ</sup>と

あざうごうごう時おこりくはろひきといえ  
しれよてこまきまへくおこるるるり今出る  
え神よこ勢うひがひてまへへへへ  
ふりー下よある時この音便まへへへお  
ほーいふとゆふとふとほふとふとたふ  
かふとふとふとふとふとふとふとふとふ  
とのふおふふふふふふふふふふふふ  
あざうごうごうておこりー

あはげふふふふふふふふふふふふふふ  
つとねねよおいてふふふふふふふふ  
濁らるるりかきさけこさーすせそだ  
ちつてとはいふへちサ字なり和語よ初  
より濁るるるるー 斑駒 <sup>ブチゴ</sup> <sub>日本</sub> 記 銭 ゼニ 此類すこ  
あれど後よつてのるるるるー  
はいふへは。サ又字ハ音便よりつては濁  
乃乃の音あかりいそゆる。天半葛伯。玄實



年一... 一年二年... 橋を... 子...  
年一... 一年二年... 橋を... 子...  
年一... 一年二年... 橋を... 子...

子日六日の字... 子... 子... 子...  
子日六日の字... 子... 子... 子...  
子日六日の字... 子... 子... 子...

本董をむくけ... 仁阿反奈... 春日尔有...  
本董をむくけ... 仁阿反奈... 春日尔有...  
本董をむくけ... 仁阿反奈... 春日尔有...

うるうらるるを也まざらうらうらとよめるる曾阿切左  
 るり。どよふといふを思ふてふ。まてといふ  
 をてていふれといふれハ登以反知るるを  
 と天と通——くむるなり。あまやハ圓中ウチをく  
 ぬらうといふめるハ亦字切ぬるなり。まを清をゆ  
 まげといふめるハ。幾江反計なり。がやうといふ  
 等の五韻の字よりよありてこようつく  
 一は假名反あり梵語よ金剛頂の梵語ハ嘯バ日ザ

囉 金剛 鳥 瑟 臍 沙 頂 加やうといふくきとを日サ囉  
二の字よけ點を加ふれハ日ヅ噓ロとるるあり  
 ばごうらまゆよ——やといふて鳥ウの字を  
 日ヅ噓ロ字よ攝——觀自在をハ嘯バ路ロ松キ多タ觀  
 伊イ濕ジム嘯バ囉ラ自在 加やうといふくきとを多タ字よ  
イ チ點チを加ふれハ多タ曳チ切チ帝テイとるるあり。伊  
 の字を帝よ攝——嘯バ路ロ松キ帝テイ濕ジム嘯バ囉ラと  
 一の字のたくりおほ——これと同一



とよむじつをいあるくし

寶ハ玉篇ハ補道切とあれハ音波宇るれど  
吳音ハ保宇るるのや。吳音ハ保ハ用るる  
方ハ甫亡切とて吳漢共ハ波宇るれといのや  
波ハ用るる。吳音ハ附るる字ハ去あくれハ吳  
音ハ委——くハ知——。古書を考て知く  
まゝの他ハ寶の字ハ去あす——  
一去。入字平 四聲乃あつをけし——かくせ——。

例をい——公コウ平。孔コウ上。貢コウ去。谷コウ入。かくの——。  
平あハあつの本末あつははつ——寸一文字  
乃——て也——。とあハ短かく——  
と——のやれ。去あハるまるやうのあを  
まりす。入あハるよあつらききの音あちて  
切直るる。蝶テ。鐵テ。宅タク。七シ。敵テ。け類  
なり。昔漢末帝朱弁といふ臣ははあつを  
るるのひ——。時忽ハ天子萬福。や答へ

かるしうや。比類なき事あり。平あつと入あ  
つと煙あり。高つて居スウるあり。天下るし  
いふ天ハ平あつ乃煙あり。客傍ありといふ客ハ  
入あつの煙あり。平あつの煙ハ字の左乃申あつ  
よあつをさやく。入あつの煙ハ字の右の申はと  
よさけるあり。比類の傍よていふと天ハかりと  
平あつるありを。常しよ天といふ是よていふあり  
天地天下天子天をさやくといふ時と同。天

門又天文の博士ありといふ時ハさ便とあつあ  
り。天王天女天神天台天狗ありといふ時ハ去あ  
るありけあり。中華ありといふは只比類の  
習ひあり。平よ去のこあつ此様皆これよ流  
らへて知へ。お流しよと平よ去のこあつあ  
つと一字假名ありといふと日ハ插ハ火ハ毛け  
就け食け二字假名橋あり端あり箸あり。  
弦つ。釣つ。鶴トリあり。比類よて心得る。

本綿ゆ 然ら 奥おく 市し 音ゆき  
るるを入あうよ海くくへきとぬ鴨か 是ハ平  
あう乃堰るるよ鴨河かこれハとあう鴨社かの  
是ハ去あうなうけくきうようりて同しこ  
かくあう乃かりるるなり

和字正濫鈔卷五終

元祿八乙亥歲九月吉日

雕刻

京都富小路佛光寺上

中河喜兵衛

江戸本石町三丁目

中河五郎兵衛

書林

時宗五藏卷五

三十一  
三十一  
三十一

# 書林

中阿正明共備

此中本百四三十一目

中阿毒共備

京清富小經轉共備

示錄八ノ亥歳以月吉日

輦陵

